

新風

千葉県医療情報

BREATHE NEW LIFE

肝臓がん予防を可能にする 小児の B 型肝炎ワクチン 定期接種

肝硬変や肝臓がんの主要原因の一つである B 型肝炎を予防するワクチンが、平成 28 年 10 月から定期接種※となつています。
なぜ、国が勧める定期接種となつたのか。このワクチンの必要性について、東邦大学医療センター佐倉病院小児科の小松陽樹医師にお話を伺います。

※法律に基づき、市区町村が公的負担で実施する予防接種。費用は、定められた期間内で受ける場合、原則無料。



東邦大学医療センター
佐倉病院小児科
小松 陽樹 医師

▼ 乳児のうちに食い止めたい B 型肝炎ウイルス感染

肝臓の病気というアルコールの飲み過ぎと思われがちですが、その多くはウイルスが原因となるウイルス性肝炎です。ウイルス性肝炎は、原因となるウイルスによつて A 型、B 型、C 型、D 型、E 型などに分けられます。これらのウイルス性肝炎のうち B 型肝炎と C 型肝炎は日本人の肝臓がんの主要な原因となつています。このうちの B 型肝炎を予防するワクチンの接種が、平成 28 年に定期接種化されました。

B 型肝炎は、成人になつてから感染すると、肝臓の細胞が破壊されて働きが悪くなる急性肝炎を発症することや、まれに致死率の高い劇症肝炎を発症することがあります。

しかし、自覚症状がないままウイルスが排除される人も多く、基本的には一過性の感染のあと免疫を取得して終息します。ところが、免疫力の弱い 5 歳未満の乳

幼児が B 型肝炎に感染すると、「キャリア」といって、肝臓にすみついたウイルスを生涯持ち続ける状態になりやすいのです。

キャリアとなると、発症していなくても他人に感染させる恐れが生じ、年齢を重ねるうちに、慢性肝炎から肝硬変、最終的には肝臓がんへと進展する危険性が高まります。これを予防できるのが B 型肝炎ワクチンです。

つまり、B 型肝炎ワクチンとは、B 型肝炎のみならず、肝臓がん予防を可能としたため、はじめてのがん予防ワクチンとも呼ばれ、高く評価されています。

その重要性から、WHO（世界保健機構）は、1992 年に世界中のすべての国民が B 型肝炎ウイルスのワクチンを接種すべきだと勧告し、欧米ではかなり前から全ての乳児を対象に接種を始めていました。

ワクチン接種について、日本はいまだに欧米に遅れている状況ですが、B 型肝炎ワクチンはようやく定期接種となり、世界基準に追いついてきたわけです。

▼ 国際化に伴い感染経路が拡大し 若い人のキャリア化が増加

B 型肝炎は、血液や体液を介して感染します。

主な感染経路としてこれまで最も多かったのが、分娩を含めた周産期にウイルスをもつ母親から感染する母子感染であり、もう一つは性行為です。

B型肝炎ワクチンの定期接種スケジュール

生後2か月から始めて、0歳のうちに3回接種が必要。3回目は、2回目から4～5か月の間隔をあけて受けます。

※小児用肺炎球菌ワクチンなどとの同時接種がお勧めです。

B型肝炎	乳児期											
	生後すぐ	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9～11か月		
定期接種			1回目	2回目				3回目				
母子感染予防	1回目	2回目					3回目					

※妊婦がキャリアの場合は、出生直後に「抗HBs ヒト免疫グロブリン」とワクチンを接種します。2回目のワクチンは生後1か月、3回目のワクチンが生後6か月です（健康保険適用）。通常の定期接種の場合とスケジュールが異なりますので、ご注意ください。

日本では1986年から妊婦に血液検査を行い、ウイルスを持つていた場合には、出生後すぐの新生児にワクチンと抗HBs ヒト免疫グロブリンという薬を接種する「母子感染防止事業」が実施され、これにより出産時の母子感染は激減しました。

ただ、頻度は低いものの、食べ物の口移しや幼児の噛みつきなど、濃厚接触による感染も存在します。（※常識的な集団生活の場で、B型肝炎ウイルスに感染することはほぼないため、誤解や偏見は禁物です）

さらに、近年では若い人を中心に、性行為等を介してB型肝炎ウイルスに感染するケースが増加しています。

これは、海外交流が盛んになり、昔の日本にはなかった遺伝子型AというタイプのB型肝炎ウイルスが海外から入ってきたことが原因です。

遺伝子型AタイプのB型肝炎は慢性化する可能性が高く、つまりは肝臓がんを引き起こす可能性が高いため、この流行傾向は社会的にも大きな問題です。

▼安全で効果的なワクチン接種でうつることも、うつすことも防ぐ

B型肝炎ワクチンは、妊婦が感染しているか否かに関わらず、0歳児のうちに計3回の接種を行います。

1歳の誕生日を過ぎたお子さんの場合は公的負担の対象外となり、1回5000円程度の料金がかかりますが（市

町村によっては公的助成があります）、大変重要なワクチンですので、未接種の場合にはできるだけ早く接種することをお勧めします。

遅くとも、性交渉開始前の思春期には接種完了されていることが望ましいといえます。また、同居家族にB型肝炎患者やキャリアとなった人がいる場合、家族は早急にワクチンを接種する必要があります。

副反応を懸念する方もいますが、軽度のかゆみや腫れ、発熱等のみで強い副反応の事例はなく、効果も安全性も高いワクチンです。

お子さんをB型肝炎ウイルスによるキャリア化や将来の重篤な病気から守るためにも、感染の拡大を防ぐためにも、ワクチン接種は非常に重要であることを、ぜひご理解いただきたいと思います。

定期接種の恩恵を受けていない小児及び成人

定期接種の恩恵を受けていない小児は、思春期前（中学生頃）までに接種することが望ましく、高校生以上の学生も接種を推奨します。また成人は、感染リスクが高いと思われる[※]が対象となります（学生・成人とも3回接種です。初回から4週間あけて2回目、2回目から20～24週後に3回目を接種します。／公的負担対象外）。



※キャリア患者と同居または親しくしている家族、男性と性交をする男性、医療・介護職、警察官、消防士など。